

神々と男たち (2010)

DES HOMMES ET DES DIEUX
OF GODS AND MEN

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 フランス

色彩 Color

時間 120分

初公開日 2011/03/05

公開情報 マジックアワー=IMJエンタテインメント

映倫 PG12

【キャッチコピー】

さよならを言わなければならない時に——ともに生きる

【解説】

1996年にアルジェリアで起きた武装イスラム集団によるフランス人修道士誘拐・殺害事件を完全映画化した衝撃と感動のヒューマン・ドラマ。2010年のカンヌ国際映画祭では次席にあたるグランプリを受賞。内戦が激化し、死の危険が迫る中、それでもなお現地にとどまることを決断するに至った7人の修道士の揺れ動く心の軌跡を厳粛かつ繊細なタッチで綴る。主演は「巴里の恋愛協奏曲（コンチェルト）」「華麗なるアリバイ」のランベール・ウィルソン。監督は俳優としても活躍するグザヴィエ・ボーヴォワ。これまでに5本の長編を手掛けているが、日本での劇場公開は本作が初となる。

1990年代。イスラム教圏の国、アルジェリア。山あいの小さな村に立つ修道院では、カトリック修道士たちが厳しい戒律を守りながら質素にして穏やかな共同生活を送っていた。彼らはイスラム教徒の地元民とも良好な関係を築き、医師でもあるリュックのもとには診察を希望する多くの住民が日々訪れていた。そんな中、内戦が激しさを増し、彼らの周辺でもイスラム過激派グループのテロによる犠牲者が出始める。修道士たちの間でも、避難すべきか村にとどまるべきかで意見が分かれ、修道院長のクリスチャンにもすぐには結論が出せない。そしてついに、フランス政府から修道士たちへの帰国命令が出されるが…。

【クレジット】

| | | | |
|----|---------------|---------------------|--------|
| 監督 | グザヴィエ・ボーヴォワ | Xavier Beauvois | |
| 脚本 | エチエンヌ・コマル | Etienne Comar | |
| 脚色 | グザヴィエ・ボーヴォワ | Xavier Beauvois | |
| | エチエンヌ・コマル | Etienne Comar | |
| 台詞 | グザヴィエ・ボーヴォワ | Xavier Beauvois | |
| | エチエンヌ・コマル | Etienne Comar | |
| 撮影 | カロリーヌ・シャンプティエ | Caroline Champetier | |
| 美術 | ミシェル・バルテレミ | Michel Barthelemy | |
| 衣装 | マリエル・ロボー | Marielle Robaut | |
| 編集 | マリー=ジュリー・マイユ | Marie-Julie Maille | |
| 出演 | ランベール・ウィルソン | Lambert Wilson | クリスチャン |
| | マイケル・ロンズデール | Michael Lonsdale | リュック |
| | オリヴィエ・ラブルダン | Olivier Rabourdin | クリストフ |
| | フィリップ・ロダンバッシュ | Philippe Laudenbach | セレストン |

allcinema

| | | |
|-------------|-----------------|-----------|
| ジャック・エルラン | Jacques Herlin | アメデ |
| ロイック・ピション | Loïc Pichon | ジャン=ピエール |
| グザヴィエ・マリー | Xavier Maly | ミシェル |
| ジャン=マリー・フラン | Jean-Marie Frin | ポール |
| オリヴィエ・ペリエ | Olivier Perrier | ブリュノ |
| サブリーナ・ウアザニ | Sabrina Ouazani | ラビア |
| ファリド・ラービ | Farid Larbi | アリ・ファヤティア |
| アデル・バンシェリフ | Adel Bencherif | テロリスト |